

中国語の主語指向型動補構造に関する一考察

崔 盼 盼

要 旨

中国語動補構造には、“吃饱饭”“喝醉酒”のように、目的語がありながら、なお主語の状態変化を表すタイプがある。本稿では、中国語の目的語を伴う主語指向の結果動補構造の容認度は、V-Rの組み合わせや目的語の種類によって異なることを明らかにする。目的語となる名詞句を「単独名詞」「複雑名詞句」「単純名詞句」の三種類に分け、結果補語との共起関係を考察した結果、心理状態タイプの補語は三種類すべての目的語と共起できるのに対して、感情表出タイプの補語は長く複雑な目的語としか共起できず、身体状態タイプの補語は非常に短い名詞か長く複雑な目的語と共起できることが分かった。

【キーワード：中国語／主語指向型動補構造／目的語／共起条件／容認度】

1. はじめに

中国語では、(1a)のように、「動詞＋結果補語」という複合動詞の形式からなる「結果動補構造(以下「動補構造」と呼ぶ)」を用いて、原因とその結果を表すことができる。

- (1) a. 他 砍－倒 了 一棵樹。
彼 切る－倒れる PERF 一-CL-木
「彼は木を切り倒した。」
b. 原因事象：他砍一棵樹「彼が木を切る」
結果事象：一棵樹倒「木が倒れる」

(1b)に示した通り、一般には原因となる事象を表す動詞V(“砍”)の後に続くのは、目的語の結果状態を表す述語R(Resultative predicate)(“倒”)であることが多いが、(2a)のように、Rが主語の結果状態を表すこともある。(2b)では、「子どもが泣いた」結果として、主語である子ども自身が疲れたのであり、目的語は存在しない。

- (2) a. 小孩子 哭－累 了。
子ども 泣く－疲れる PERF
「子どもは泣き疲れた。」

(彭2011：43)

- b. 原因事象：小孩子哭了「子どもが泣いた」
結果事象：小孩子累了「子どもが疲れた」

望月 (1990) は (2a) のように補語が主語の結果状態を表す動補構造を「主語指向型」の動補構造と呼ぶ。主語指向型の動補構造は目的語をとらないのが普通であるが、次のように目的語をとりながら、なお主語の状態変化の結果を表す場合がある。

- (3) a. 他 吃-飽 了 飯。
 彼 食べる-満腹である PERF ご飯
 「彼はご飯を食べて満腹になった。」
- b. 他 喝-酔 了 酒。
 彼 飲む-酔っ払う PERF 酒
 「彼は酒を飲んで酔っ払った。」
- c. 老师 讲-烦 了 课。
 先生 教える-うんざりする PERF 授業
 「先生は授業をしすぎてうんざりした。」

(任鷹2001)

- d. 我 看-倦 了 风景, 走-累 了 路。
 私 見る-疲れる PERF 風景 歩く-疲れる PERF 道
 「私は風景を見るのに疲れたし、道も歩き疲れてしまった。」

(简嬅《胭脂盆地》)

(3) に現れた目的語は、すべて前項動詞Vの目的語がそのままVR構造に引き継がれ、文全体の目的語になっている。しかし、すべての場合でVの目的語がVRに引き継がれるわけではない。(4a)の“书(本)”や(4b)の“这碗饭(このご飯)”はそれぞれ動詞“看(見る)”“吃(食べる)”の目的語であるにもかかわらず、これらの文は非文である。それに対して、“看累了书(本を読み疲れた)”“吃饱了饭(ご飯を食べて満腹になった)”は自然な文であるため、(4)の文が不自然である理由はそれぞれ結果補語“一哭”と目的語“这碗饭”にあると考えられる。

- (4) a. *他 看-哭 了 书。
 彼 読む-泣く PERF 本
 「彼は本を読んで泣いた。」
- b. *他 吃-飽 了 这碗饭。
 彼 食べる-満腹である PERF この-CL-ご飯
 「彼はこのご飯を食べて満腹になった。」

本稿では、中国語の目的語を伴う主語指向型の結果動補構造における成立条件を探ることを目的とし、インフォーマント調査と現代中国語コーパスを通じて収集した例文を分析することにより、

動補構造に課せられた制限が目的語の種類および結果補語のタイプによって異なることを示す。以下、2節では、主語指向型における目的語の可能な種類と容認度を考察し、容認度に影響する要素を推測する。続いて、3節では、結果補語Rとして現れる述語の種類を提示し、それぞれの目的語との共起状況を明らかにする。最後に4節では、本稿のまとめと残る問題点について述べる。

2. 主語指向型における目的語の種類と生起条件

彭 (2011: 43) は主語指向型動補構造を前項動詞の他動性によって三つに分類している。

A類：前項動詞が自動詞であり、動補構造全体も目的語をとらない。

(5) 小孩子 哭-累 了。(= 2a)

子ども 泣く-疲れる PERF

「子どもは泣き疲れた。」

B類：前項動詞は他動詞であるものの、動補構造全体は目的語をとらない。

(6) a. 他 吃-胖 了 (*中餐)。

彼 食べる-太る PERF 中華料理

「彼は(中華料理を)食べて太った。」

b. 我 看-哭 了 (*电影)。

私 見る-泣く PERF 映画

「私は(映画を)見て泣いた。」

C類：前項動詞が他動詞であり、動補構造全体も目的語をとる。

(7) a. 他 吃-够 了 (红烧肉)。

彼 食べる-飽きる PERF 豚の角煮

「彼は(豚の角煮を)食べ飽きた。」

b. 他 听-腻 了 (软绵绵的歌儿)。

彼 聞く-飽きる PERF 軟弱な曲

「彼は軟弱な曲を聞き飽きた。」

(彭2011: 43)

本論文の目的は、目的語と共起可能な主語指向型動補構造C類の成立条件を探ることにあるが、動補構造が目的語をとるためには、まず前項動詞が他動詞、あるいは、他動詞として振る舞うことができる動詞(例えば“走(歩く)”)でなければならない。加えて、前述した通り、結果補語と目的語の二つの要素にも制限がある。

まずは、動補構造がどのような目的語をとれるのかという点について考察していく。

主語指向型動補構造C類の最も典型的な目的語は、(3)の“飯(ご飯)”“酒(酒)”“课(授業)”“路(道)”のように、上位概念を表す単音節語であり、しばしば省略されてしまう「虚目的語」(石

村2011) と呼ぶべきものである。(8) に見られるように、具体性・指示性を持つ名詞句は目的語として許されない。このように、目的語として共起できるものに制限があるため、李 (1986)、施 (2005)、石村 (2011) などは、C類の動補構造を生産性の低い特別な例外として扱っている。

- (8) a. *他 吃-饱 了 这碗饭。(= 4 b)
 彼 食べる-満腹である PERF この-CL-ご飯
 「彼はこのご飯を食べて満腹になった。」
 b. *张三 喝-醉 了 那杯酒。
 张三 飲む-酔っ払う PERF あの-CL-酒
 「張三はあの酒を飲んで酔っ払った。」

しかし齊木 (2004: 190) は、主語指向型動補構造が取る目的語の判断には個人差があることを指摘している。たとえば (9) の例で、目的語として食事を表す総称的な名詞“飯”のみを許す話者と、“面包 (パン)”や“饺子 (餃子)”であってもよいとする話者がいるという。

- (9) 他 吃-饱 了 {飯/面包/餃子}。
 彼 食べる-満腹である PERF {ご飯/パン/餃子}
 「彼は {ご飯/パン/餃子} を食べて満腹になった。」

(齊木2004: 190)

さらに、(10) に示すように、現代中国語コーパスや中国語のウェブサイトを検索すると、“飯”“酒”以外の目的語をとる主語指向型動補構造の例文が少なからず見つかる。中には“觉 (眠り)”のような上位概念を表す単音節語もあれば、“萨勒亲手烹调的可口饭菜 (サーラーの美味しい手作り料理)”のような複雑な名詞句もある。これらの例文から、主語指向型動補構造が目的語をとるのはそれほど珍しい現象でも、「生産性の低い特別な例外」でもないことがわかる。

- (10) a. 他们 听-厌 了 官话, 看-够 了 现实。
 彼ら 聞く-飽きる PERF お世辞 見る-十分である PERF 現実
 「彼らはお世辞を聞き飽きたし、現実も見飽きた。」

(黄裳《书之归来》)

- b. 我 听-懂 了 他说的话。
 私 聞く-分かる PERF 彼の話
 「私は彼の話を理解した。」
 c. 他 睡-醒 了 觉。
 彼 眠る-目覚める PERF 眠り

「彼は眠りから目覚めた。」

d. 他 喝-晕 了 酒。

彼 飲む-くらくらする PERF 酒

「彼は酒を飲んで（頭が）くらくらした。」

e. 剛 在 利苑 喝-爽 了 杨枝甘露。

先ほど で 利苑（店名） 飲む-気持ちいい PERF 楊枝甘露（飲み物）

「先ほど利苑で楊枝甘露（飲み物の一種）を飲んで気持ちよくなった。」

(<http://www.dianping.com/review/5069278>)

f. 而现在, 能够 吃-饱 萨勒 亲手 烹调的

しかし今 できる 食べる-満腹である サーラー 手掛ける 作った

可口 饭菜, 他 看起来 健壮 多了。

美味しい 料理 彼 に見える たくましい より PERF

「しかし今、サーラーの美味しい手作り料理が食べられ、満腹になれるから、彼はたくましくなったようだ。」

(东平《林肯和他的继母》)

どのような名詞句が主語指向型動補構造の目的語になれるのかをはっきりさせるため、代名詞・指示詞など、さまざまな名詞句を目的語の位置に挿入して例文を作り、11人の中国語母語話者を対象としてインフォーマント調査を行った。容認度の個人差は確かにあるが、その結果はおおよそ次のようにまとめられる。表1に目的語のタイプごとに容認度を考察した結果を記述する。また、(11)では考察に使った例文の一例を示す。

表1 目的語のタイプと容認度

| | | | |
|-----|-------|---|-----|
| 指示性 | | | 容認度 |
| 高 | */?/? | 単純名詞句 | 低 |
| ↑ | | ・代名詞：他（彼） etc. ・疑問詞：谁（誰），哪个（どれ） etc. ・固有名詞：悠悠（人名），法国（地名） etc. ・指示詞+N：那碗饭（あのご飯） etc. ・数量詞+N：三个小偷（三人の泥棒） etc. | ↑ |
| | ??/? | 複雑名詞句 | |
| | | 那杯度数很高的葡萄酒（あのアルコール度数の高いワイン）， 这条泥泞不堪的路（このドロまみれの道） etc. | |
| ↓ | ?/OK | 単独名詞 | 高 |
| | | ・複音節：面包（パン），茅台酒（茅台酒） etc. ・単音節：饭（ご飯），酒（お酒），马（馬） etc. | ↓ |

(11) a. 他 吃-饱 了
 {饭/?面包/?饺子/??什么/*那碗饭/*几碗饭}。
 彼 食べる-満腹である PERF

{ ご飯 / ? パン / ? 餃子 / ?? 何 / * あのご飯 / * 何杯のごはん }

「彼は { ご飯 / パン / 餃子 / 何 / あのご飯 / 何杯のごはん } を食べて満腹になった。」

b. 他 走 - 累 了 { 路 / ? 石子路 / ?? 这条路 / * 哪条路 }。

彼 歩く - 疲れる PERF { 道 / ? 砂利道 / ?? この道 / * どの道 }

「彼は { 道 / ? 砂利道 / ?? この道 / * どの道 } を歩き疲れた。」

ここでは目的語を表1のように、修飾語が一切付かない「単独名詞」、代名詞・疑問詞・固有名詞・指示詞または数量詞付き名詞からなる「単純名詞句」、修飾語句がいくつも現れる「複雑名詞句」という、三種類に分類する。

ここでいう単独名詞には、先行研究で示された単音節(“飯”, “酒” など)または2音節(“面包”, “餃子” など)の名詞にとどまらず、それ以上の音節を持つ名詞(“高尔夫(ゴルフ)” “自行车(自転車)”)も含む。一方、複雑名詞句内では名詞または形容詞、指示詞、数量詞などが単独あるいは組み合わさって名詞を修飾している。

表1から明らかのように、単独名詞はもっとも目的語として容認されやすい。そのうち、単音節名詞の容認度が一番高く、複音節名詞には若干の揺れがあるが、全体的に見ると容認される傾向が強い。それに対して、単純名詞句が目的語になる場合には、被調査者の抵抗感が非常に大きかったため、容認度が明らかに低くなる。(11)の例文にも同じような現象が見られ、指示性が高くなるにしたがって、容認度が低下している。言い換えると、「タイプ」解釈を許す指示性の低い名詞句のほうが、個別性のある「トークン」解釈の名詞句より、目的語になりやすいようである。

しかし、複雑名詞句はこの傾向に反している。(12)のように、目的語に修飾語句をつけてさらに長くすると、逆に容認度が上がるのである。ほとんどの調査対象者が、(12)の文は「完全に自然」あるいは「少々不自然だが十分に容認可能」と判断している。

(12) 他 走 - 累 了 那条 泥泞不堪的 乡间石子路。
 彼 歩く - 疲れる PERF あの - CL 泥まみれの 田舎の砂利道
 「彼はあの泥まみれの田舎の砂利道を歩き疲れた。」

ここまでの議論をまとめると、目的語をとる主語指向型動補構造には以下のような特徴がみられる。

- (13) a. 前項動詞は目的語を取れる
 b. 三種類の目的語は以下の順で容認度が下がる
 I 類：単独名詞 (修飾語句が一切付かない一つの名詞)
 II 類：複雑名詞句 (複数の修飾語句が付く名詞句)
 III 類：単純名詞句 (代名詞、疑問詞、固有名詞、指示詞・数量詞付きの名詞句)

(13b) I類の「単独名詞」目的語は石村(2011)などが言う「虚目的語」の特性が強く、簡潔であればあるほど良くなる。逆にII類の「複雑名詞句」目的語は長く複雑であればあるほど良い。

このII類の名詞句に対する条件を確認するために、実際に、目的語を構成する修飾要素を一つずつ減らして、その容認度の違いを観察した。ここでは、コーパスにおいてもっとも検索結果が多い“吃饱”を用いた文を用いて調査した。その結果は以下のとおりである。まず、非常に長い目的語(14a, b, c, e)は、修飾語句の数と種類は多少異なるが、容認度はほぼ同様に高い。修飾語句をひとつ指示詞に交替させた(14d)の容認度がそれに続く。修飾語句と同時に数量詞も持つ(14f)は修飾語句が一つしかない(14j)よりも容認度が低いが、数量詞だけの(14h)よりは高い。指示詞と1つの修飾語句を持つ(14g)は指示詞だけの(14i)と同様に容認不可能である。要するに、指示詞のある(14d, g, i)と指示詞のない(14e, f, h, j)を比べると、指示詞は容認度を下げるようである。全体的な容認度の違いは(15)のように表される。

(14) 吃-饱了

- | | | | | | | |
|----|---------|---------|---------|-------|------|----|
| a. | 这 | 满满 | 一大碗 | 香喷喷的 | 白米 | 饭。 |
| | この | いっぱい | 大きな碗 | よい香りの | 白米 | ご飯 |
| | 〈指示〉 | 〈修飾〉 | 〈数量+修飾〉 | 〈修飾〉 | 〈修飾〉 | |
| b. | 满满 | 一大碗 | 香喷喷的 | 白米 | 饭。 | |
| | 〈修飾〉 | 〈数量+修飾〉 | 〈修飾〉 | 〈修飾〉 | | |
| c. | 这 | 一大碗 | 香喷喷的 | 白米 | 饭。 | |
| | 〈指示〉 | 〈数量+修飾〉 | 〈修飾〉 | 〈修飾〉 | | |
| d. | 这 | 一大碗 | 白米 | 饭。 | | |
| | 〈指示〉 | 〈数量+修飾〉 | 〈修飾〉 | | | |
| e. | 一大碗 | 香喷喷的 | 白米 | 饭。 | | |
| | 〈数量+修飾〉 | 〈修飾〉 | 〈修飾〉 | | | |
| f. | 一碗 | 白米 | 饭。 | | | |
| | 〈数量〉 | 〈修飾〉 | | | | |
| g. | 这碗 | 白米 | 饭。 | | | |
| | 〈指示〉 | 〈修飾〉 | | | | |
| h. | 一碗 | 饭。 | | | | |
| | 〈数量〉 | | | | | |
| i. | 这碗 | 饭。 | | | | |
| | 〈指示〉 | | | | | |
| j. | 白米 | 饭。 | | | | |
| | 〈修飾〉 | | | | | |
| k. | 饭。 | | | | | |

- (15) $k > \underbrace{a \approx b \approx c} > e > \underbrace{d > j} > \underbrace{f > h} > \underbrace{g = i}$
 O k ? ?? *

まとめると、容認度は単独名詞が最も高く (k)、様々な修飾要素を具える複雑で長い目的語がそれに続く (a, b, c)。指示詞や数量詞などの限定要素だけを持つ単純名詞句は、明らかに容認度が下がる。また修飾語句は容認度を上昇させるが、形容詞修飾語のほうが名詞修飾語より容認度を上げる力が強い (c) d, e) f) h)。一方、指示詞は容認度を下げる効果がある (d, g, i)。このように、主語指向型動補構造の目的語には、修飾語句に関する制約があることが明らかになった。さらに、(16) に示すように、目的語の制限だけではなく、結果補語の影響も考慮しなければならない。

- (16) a. 他 吃-饱 了 饭。(= 3a)
 彼 食べる-満腹である PERF ご飯
 「彼はご飯を食べて満腹になった。」
 b. *他 吃-胖 了 饭。
 彼 食べる-太る PERF ご飯
 「彼はご飯を食べて太った。」

次節では、(13b) の目的語の三分類に基づき、どのような結果補語が目的語と共起できるのかについて考察する。

3. 主語指向型における結果補語の種類と目的語との共起関係

彭 (2011: 43) は、主語指向型動補構造において、その補語動詞は一般的に人の感覚・気持ち・心理状態を表すと指摘し、代表的な補語の例をいくつか挙げている。ここでは、結果補語 R を次の三つに分類することを提案する。これは、以下で見るとおり、三種類の目的語と共起する可能性がそれぞれ異なるからである。

- (17) 結果補語 R のタイプ:

i. 心理状態タイプ

烦 (うんざりする)、膩 (飽きる)、烦膩 (飽き飽きする)、够 (十分である)、怵 (恐れる)、怕 (怖がる)、慣 (慣れる)、厌 (飽きる)、高兴 (嬉しい)、懂 (理解する)、会 (通曉する) etc.

ii. 身体状態タイプ

饱 (満腹になる)、醉 (酔っ払う)、累 (疲れる)、倦 (倦む)、晕 (くらくらする)、醒 (目

覚める) etc.

iii. 感情表出タイプ

哭 (泣く)、笑 (笑う)、乐 (面白がる) etc.

この分類によれば、心理状態タイプの結果補語は、主に「限界」あるいは「認知」などの意味を持つ述語である。身体状態タイプの結果補語は、体の状態変化を表す述語からなる。感情表出タイプの補語は「泣く」「笑う」のような、外に現れた心の動きを表す述語である。

では、三つのタイプの結果補語と、前述した三種類の目的語との共起を考察してみよう。現代中国語コーパスでの出現頻度とインフォーマント調査の結果および筆者自身の容認度の判断は、以下のようにまとめられる。まずは「i. 心理状態タイプ」の結果補語を用いる動補構造を中心として、共起可能な目的語について検討する。

(18) I類：単独名詞

- a. 他 听-烦 了 歌。
 彼 聞く-うんざりする PERF 歌
 「彼は歌を聴きすぎてうんざりした。」
- b. 他 喝-够 了 茶。
 彼 飲む-十分である PERF お茶
 「彼はお茶を飲み飽きた。」
- c. 他们 听-厌 了 官话, 看-够 了 现实。(=10a)
 彼ら 聞く-飽きる PERF お世辞 見る-十分である PERF 現実
 「彼らはお世辞を聞き飽きたし、現実も見飽きた。」
- d. 他 学-会 了 高尔夫。
 彼 学ぶ-通曉する PERF ゴルフ
 「彼はゴルフを学んで、できるようになった。」

(19) II類：複雑名詞句

- a. 他 吃-膩 了 法国厨子 精心 烹制的 饭菜。
 彼 食べる-飽きる PERF フランス料理人 心を込めて 作った 料理
 「彼はフランス料理人が心を込めて作った料理を食べ飽きた。」
- b. 他 听-懂 了 我的 不知道 合不合 语法,
 彼 聞く-理解する PERF 私の 知らない 合うかどうか 文法
 又 夹带 广西口音 的 英语。
 また ある 広西のなまり の 英語
 「彼は文法が正しいかどうか怪しい、広西のなまりがある私の英語を聞いて理解した。」

(藍直榮《喬治老人》)

(20) Ⅲ類：単純名詞句

- a. 它 (小狗) 一鳴, 老狗 便 听-懂 了 它。
 それ (子犬) 鳴くと 親犬 すぐに 聞く-理解する PERF それ
 「子犬が鳴き出した途端、親犬はその意味をすぐ理解した。」
 (严歌苓《爱犬颗韧》)
- b. 无论 你 看-膩 了 什么, 阿七 总会 给你
 たとえ あなた 読む-飽きる PERF 何 七ちゃん きっと あなたに
 帶來 不-一样的 感觉。
 もたらず 異なった 感觉
 「たとえ何を読み飽きたとしても、七ちゃんは必ず新鮮な感じを与えてくれる。」
 (<http://tieba.baidu.com/p/3016417159>)
- c. 您 现在 一定 住-慣 了 法国, 几乎 把它 当作
 あなた 現在 きっと 住む-慣れる PERF フランス すでに それを 見なす
 你的 祖国 了 吧。
 あなたの 祖国 PERF でしょう
 「あなたはきっとフランスに住むことに慣れていて、もうすでに自分の母国だと思っ
 ているのでしょう。」
 (蒋学模译《基督山伯爵》)

以上の例文から分かるように、心理状態タイプの結果補語は三つのタイプすべての目的語と共に起
 できる。ここで注意すべきは、認知能力を表す(18d)の“会”および(19b)の“懂”は単独で
 目的語をとることができるため、後ろの目的語は虚目的語ではなく、すべて新しい情報を持つ真性
 の目的語である。このような結果補語は極めて稀であるため、ここでは詳しく分析しないことにする。
 次に「ii. 身体状態タイプ」の結果補語と目的語の共起関係を考察する。

(21) I類：単独名詞

- a. 我 看-倦 了 书。
 私 読む-倦む PERF 本
 「私は本を読み疲れた。」
- b. 张三 喝-暈 了 酒。
 張三 飲む-くらくらする PERF 酒
 「張三は酒を飲んで頭がくらくらしている。」
- c. 妈妈 睡-醒 了 午觉。
 母 寝る-目覚める PERF 昼寝
 「母は昼寝から目覚めた。」

(22) II類：複雑名詞句

- a. 他 走-累 了 那条 泥泞不堪的 乡间石子路。(=12)
 彼 歩く-疲れる PERF あの-CL 泥まみれの 田舎の砂利道
 「彼はあの泥まみれの田舎の砂利道を歩き疲れた。」
- b. 他 看-倦 了 那 厚厚 一摞 泛黄的 史书文献。
 彼 読む-倦む PERF あの 厚い 一重ね 古い 史書と文献
 「彼は一重ねの古い史書と文献を読んで疲れた。」
- c. 他 嗅-晕 了 那 女子 身上 浓烈的 香水味。
 彼 嗅ぐ-くらくらする PERF あの 女子 体の 濃密な 香水の香り
 「彼はあの女性がつけている香水の濃密な香りを嗅いでくらくらした。」
- d. ?他 睡-醒 了 一个 美美的 下午觉。
 彼 眠る-目覚める PERF 一-CL 気持ちいい 昼寝
 「彼は甘い昼寝から目覚めた。」

(23) III類：単純名詞句

- a. *他 吃-饱 了 那碗饭。
 彼 食べる-満腹である PERF あの-CL-ご飯
 「彼はあのご飯を食べて満腹になった。」
- b. *他 喝-晕 了 一杯伏特加。
 彼 飲む-くらくらする PERF 一-CL-ヴォッカ
 「彼はヴォッカを一杯飲んでくらくらした。」
- c. *他 看-倦 了 那个。
 彼 読む-倦む PERF あれ
 「彼はあれを読んで疲れた。」

上に示したように、身体状態補語は単独名詞または複雑名詞句の目的語とは自然に共起できるが、単純名詞句とは共起しにくい。複雑名詞句の場合は、(22d) が (22a, b, c) と比べて容認度が少し下がることから分かるように、名詞句が長くかつ詳しくなればなるほど、目的語として適切になる。

最後に、「III. 感情表出タイプ」を考察しよう。

(24) I類：単独名詞

- a. *妈妈 看-哭 了 书。
 母 読む-泣く PERF 本
 「母は本を読んで泣いた。」
- b. *小明 看-笑 了 电影。

明くん 見る-笑う PERF 映画
「明くんは映画を見て笑った。」

- c. ??孩子们 听-乐 了 故事。
子どもたち 聞く-面白がる PERF 物語
「子どもたちは物語を聞いて面白がった。」

(25) II類：複雑名詞句

- a. ?妈妈 看-哭 了 那本 俄罗斯作家 写的 悲剧小说
母 読む-泣く PERF あの-CL ロシア作家 書いた 悲劇の小説
「母はあのロシア作家が書いた悲劇小説を読んで泣いた。」
- b. ?老师 看-笑 了 小明写的 那篇 关于外星人的 作文。
先生 読む-笑う PERF 明くんが書いた あの-CL 宇宙人に関する 作文
「先生は明ちゃんが書いたあの宇宙人についての作文を読んで笑った。」
- c. ?爸爸 听-乐 了 两个小孩 一本正经的 对白。
父 聞く-面白がる PERF 二人の子ども 大真面目な 対話
「父は二人の子どもの大真面目な対話を聞いて面白がった。」

(26) III類：単純名詞句

- a. *妈妈 看-哭 了 那本 《红楼梦》。
母 読む-泣く PERF あの-CL『紅樓夢』
「母はあの『紅樓夢』を読んで泣いた。」
- b. *老师 看-笑 了 两篇作文。
先生 読む-笑う PERF 二-CL-作文
「先生は二編の作文を読んで笑った。」
- c. *爸爸 听-乐 了 它。
父 聞く-面白がる PERF それ
「父はそれを聞いて面白がった。」

(24) と (26) から明らかなように、感情表出タイプの結果補語は短い単独名詞や単純名詞句の目的語と共起することはかなり難しい。それに比べると、目的語が複雑名詞句である (25) の場合は、完全に自然な文とは言いかねるものの、容認度は明確に高くなっている。

以上の結果は表2および (27) のようにまとめられる。

表2 結果補語と目的語との共起関係

| 結果補語 のタイプ \ 目的語 の類型 | I類：単独名詞 | II類：複雑名詞句 | III類：単純名詞句 |
|---------------------------|---------|-----------|------------|
| 心理状態タイプ | ○ | ○ | ○ |
| 身体状態タイプ | ○ | ○ | × |
| 感情表出タイプ | × | ○ | × |

- (27) a. 心理状態タイプの結果補語は、三種類すべての目的語と共起できる。
 b. 身体状態タイプの結果補語は、I類とII類の目的語と共起できるが、III類の単純名詞句とは共起できない。
 c. 感情表出タイプの結果補語は、II類の複雑名詞句としか共起できない。

この結論から分かるように、心理状態タイプの結果補語と共起しうる目的語はかなり自由であり、感情表出タイプの補語と共起しうる目的語は最も厳しく制限され、身体状態タイプの補語はごく短い目的語か非常に複雑な目的語をとることが分かった。しかし、なぜこういう違いが生じるのか、そして、なぜ感情表出タイプの補語は長い目的語だけが取れるのかなど、不明な点が多く残っている。

4. おわりに

本論文は、これまで単に熟語として扱われることの多かった、目的語と共起する中国語の主語指向型動補構造について考察した。そして、これまで指摘されたことのなかった、長い目的語と主語指向型動補構造との共起関係を提示した。

本稿の主な主張は、以下のようにまとめられる。

- ①前項動詞は目的語が取れる動詞でなければならない
- ②補語Rは心理状態・身体状態・感情表出という三つのタイプのみが可能である
- ③目的語は〈単独名詞—複雑名詞句—単純名詞句〉の順で容認度が下がる

本稿ではまず、目的語となる名詞句は「単独名詞」「複雑名詞句」「単純名詞句」の三種類に分けられること、さらに形容詞による修飾語句は容認度を上げるのに対して、指示詞は逆に容認度を下げる効果があることを明らかにした。

さらに、目的語と結果補語の組み合わせが文の容認度に影響を及ぼし、“膩”“烦”“够”などの心理状態タイプの結果補語は、三種類すべての目的語と共起できるのに対して、“哭”“笑”“乐”などの感情表出タイプの結果補語は、長く複雑な目的語としか共起できず、“饱”“醉”“累”などの身体状態タイプの結果補語は、単純名詞句とは共起できないが、非常に短い名詞か、長く複雑な名詞句であれば共起できることを指摘した。

今後は、本稿で明らかにした事実に対してどのような説明を与えることができるか、特に複雑名詞句が目的語として許される理由について考察を進めていきたい。

参考文献

- 石村 広 (2011) 『中国語結果構文の研究』 白帝社.
- 望月圭子 (1990) 「動補動詞の形成」 『中国語学』 237 日本中国語学会.
- 齊木美知世 (2004) 「結果表現の類型論」 筑波大学現代言語学研究会 (編) 『次世代の言語研究Ⅲ』 筑波大学 : 157-234.
- 李 臨定 (1986) 《現代漢語句型》 商務印書館.
- 彭 国珍 (2011) 《結果補語小句理論與現代漢語動結式相關問題研究》 浙江大學出版社.
- 任 鷹 (2001) 〈主賓可換位動結式述語結構分析〉 《中國語文》 第6期 : 508-518.
- 施 春宏 (2005) 〈動結式論元結構的整合過程及相關問題〉 《世界漢語教學》 第1期 : 5-21.

使用したコーパスと検索サイト :

C C L コーパス検索システム (http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)

B C C 現代中国語コーパス (<http://bcc.blcu.edu.cn/>)

百度网 (www.baidu.com)